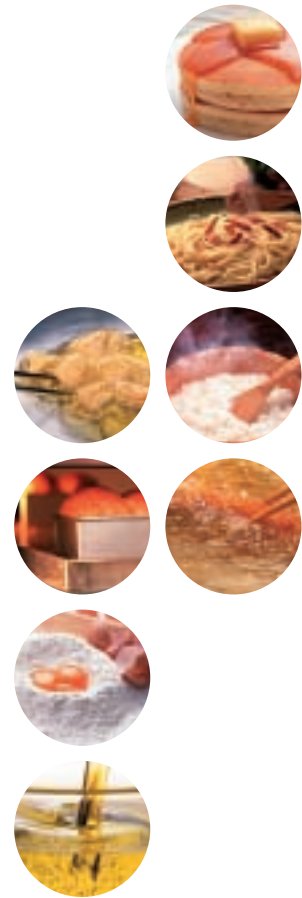




第 **104** 期
事業報告書

平成16年4月1日
▼
平成17年3月31日



日本をおいしくする

SHOWA

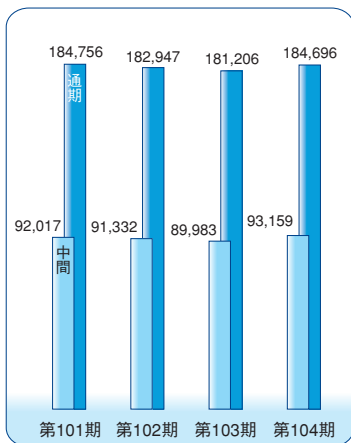
昭和産業株式会社
証券コード●NO.2004●

当 期 に お け る ポ イ ン ト

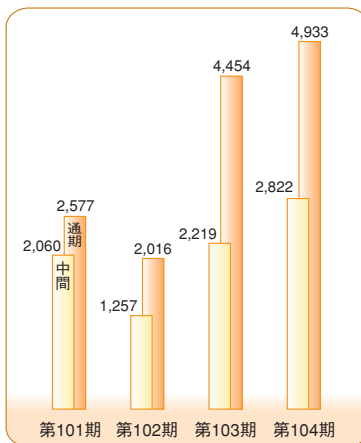
- 中期計画「SHOWA-ism(イズム)計画」2年目、順調に推移
 - ・収益性の向上に向けて施策展開し、増益で終了
 - ・有利子負債額は当初目標を超え大幅に減少
- 鶏卵販売、冷凍生地販売を子会社に移管
 - ・連結子会社の昭和鶏卵(株)、昭和冷凍食品(株)にそれぞれ鶏卵販売、冷凍生地販売を営業譲渡により移管し、生販一体化して効率化
- 飼料事業の再編を実施
 - ・神戸工場での飼料生産を中止し、委託生産へ
 - 事業の効率化で収益改善を目指す
- 生産体制改革の遂行
 - ・生産センターを設置し、新しい工場組織への改編を実施

連結業績の推移

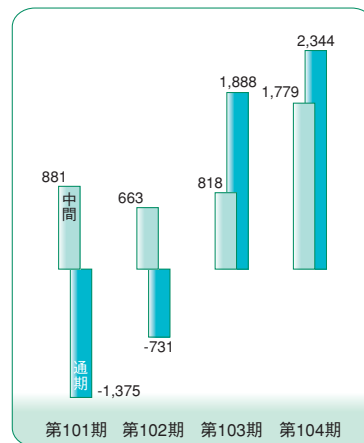
■売上高 (百万円)



■経常利益 (百万円)



■当期純利益 (百万円)



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は格別のご支援をたまわり、厚くお礼申し上げます。ここに、第104期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）の事業概況をご報告申し上げます。

当期の我が国経済は、企業収益が改善し設備投資が増加するなど、引き続き回復基調で推移しましたが、原油価格の高騰や個人消費の伸びが鈍化するなど懸念材料も多く、景気回復は緩やかなものとなりました。

食品業界におきましては、米国でのBSE（牛海綿状脳症）の影響や、穀物相場の高騰、加えて夏場の猛暑や相次ぐ台風の襲来などの自然災害が重なり、市場環境は依然として大変厳しいものとなりました。

このような状況のなかで、当グループは平成15年4月よりスタートした中期経営計画「SHOWA-ism（イズム）計画」に取り組んだ結果、順調な業績を収めることができました。

これらの結果、当期における連結業績は、売上高は1,846億96百万円と、前期に比べ34億89百万円（1.9%）の増収となり、経常利益は49億33百万円と、前期に比べ4億79百万円（10.8%）の増益となりました。また、当期純利益につきましては、23億44百万円と、前期に比べ4億55百万円（24.1%）の増益となりました。

今後の我が国経済は、原油価格や為替の動向など懸念材料もありますが、世界経済の着実な回復に伴って、景気回復は底堅く推移すると予想されます。

当グループといたしましては、中期経営計画「SHOWA-ism（イズム）計画」の最終年度目標達成に向け、全社一丸となって計画を推進し、「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」という昭和産業グループ経営理念を追求してまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。

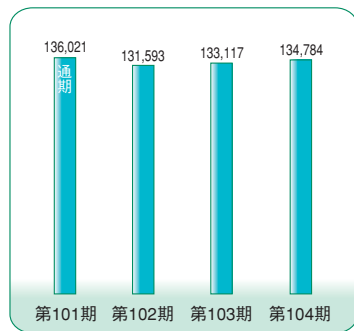
平成17年6月



代表取締役社長
福井 茂雄

事業別の状況

■ 食品事業の売上推移 (百万円)



1,347億84百万円と前期に比べ16億67百万円 (1.3%) の増収となりました。

■ 製粉部門

小麦粉は、きめ細かな提案型の営業活動を行いました。夏場の猛暑による消費の減退もあり、販売数量が若干減少しました。プレミックスは、新製品の投入や講習会の開催、キャンペーンの実施などによる拡販を進めま

食品事業

食品事業では、輸入穀物相場が高値で推移し、また船荷運賃が過去の水準を大幅に上回るなど厳しい事業環境にありましたが、引き続き高付加価値商品の拡販や製造コストおよび物流コストの低減に努めた結果、売上高は

したが、売上は前期に及びませんでした。ふすまについては、海外穀物相場の市況が堅調に推移したことや、競合する輸入品の減少によって販売価格も堅調に推移しました。

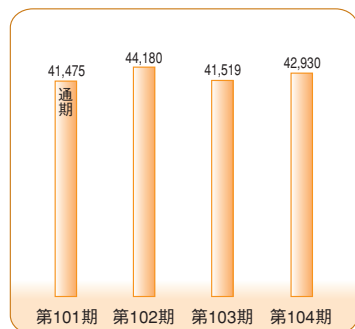
これらの結果、平成16年3月に実施した小麦粉価格の引き下げなどの影響もあり、売上高は371億48百万円 (前期比1.4%減) となりました。

■ 油脂部門

食用油の需要低迷が続くなかで、油脂の販売は収益性の高い製品の拡販を最優先で行い、特にミニタンク油の販売促進や、プレミアムオイルの分野における研究開発部門とユーザーとの連携強化などに注力しました。その結果、全体の販売数量は減少したものの、販売価格の是正により順調に売上を伸ばしました。業務用食材は販売促進を強化しましたが、売上は低調でした。

これらの結果、売上高は409億51百万円 (前期比4.3%増) となりました。

■ 飼料事業の売上推移 (百万円)



飼料事業

●●● 429億30百万円 (前期比3.4%増)

配合飼料は、収益性を重視した販売活動を展開した結果、平成16年初頭の鳥インフルエンザ発生や夏場の猛暑の影響から取引先の飼育頭羽数が減少したこともあり、販売数量が減少いたしました。販売価格は、穀物相場の変動により上下いたしました。鶏卵は期中より卵相場が回復し、販売価格は上昇しました。

また、当社神戸工場での配合飼料生産を平成16年10月末日をもって中止し、他社への委託生産に切替えるなど、収益性の向上を目的とした施策を実施しました。

これらの結果、売上高は429億30百万円と前期に比べ14億11百万円 (3.4%) の増収となりました。



売上高比率
23.2%

1,347億84百万円（前期比1.3%増）



売上高比率
73.0%

■ぶどう糖部門

糖化製品は、激しい市場競争のなかでシェアの拡大に努めた結果、夏場の猛暑の影響もあり、水あめ、異性化糖ともに出荷が好調に推移しました。乾燥でん粉（コーンスターチ）の販売数量は、同様の理由からビール向けで大幅に増加しましたが、その他食品加工用が前期を下回り、乾燥でん粉全体では前期を下回りました。また、主原料であるとうもろこしは、上期末まで強含みの相場展開が続き、その後、豊作となることが確実となったため反落しましたが、製品価格の改定、維持に努めました。

これらの結果、売上高は265億30百万円（前期比15.1%増）となりました。

■家庭用食品部門

家庭用食品部門は、より収益性の高い製品の販売を重視した営業活動を行いました。食用油は、大容量のサラダ油について販売価格の是正を行い、プレミアムオイル「オレインリッチ」の拡販に注力した結果、販売数量は減少しましたが、

収益は改善しました。小麦粉加工品は、家庭用小麦粉、パスタが不調に終わったものの、天ぷら粉の「天ぷら大サクッ戦！」をリニューアルし、お好み焼粉、ホットケーキミックスについては提案型の企画営業を行うなど拡販に努めたことにより、家庭用プレミックス全体の販売数量を伸ばすことができました。ギフトセットは、市場が縮小するなかで「オレインリッチギフト」を中心に拡販を図りましたが、パスタギフト等の不調が影響し、販売数量は伸び悩みました。

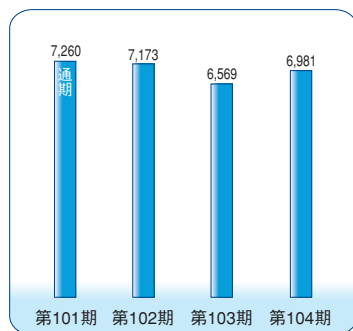
これらの結果、売上高は272億58百万円（前期比8.9%減）となりました。

■冷凍食品部門

冷凍食品は、主力製品であるたこ焼きやラビオリの販売数量は順調に推移しましたが、主要販売先である外食・給食業界の沈滞により、全体としては販売数量が減少しました。

これらの結果、売上高は28億95百万円（前期比10.6%減）となりました。

■その他事業の売上推移（百万円）



■その他事業

69億81百万円（前期比6.3%増）



売上高比率
3.8%

倉庫部門では、穀物倉庫業務における保管穀物の獲得について他社との厳しい競争が続くなか、主要取引先の安定確保を目指しましたが、飼料穀物および搾油用大豆の備蓄削減による保管積数の減少を受け、荷役量は低調でした。また、売上高においても、当社の強みでもある全国有数の荷役能力を活かした営業活動を行いました。荷役量の減少を補うには及ばず、冷凍倉庫業務における荷役量の減少もあり、倉庫部門全体として減収となりました。不動産部門では、当社旧札幌支店跡地で実施した分譲マンション事業等が寄与し、売上高は増収となりました。

これらの結果、売上高は69億81百万円と前期に比べ4億11百万円（6.3%）の増収となりました。

人を活かした改革で『SHOWA-ism(イズム)計画』

平成15年4月よりスタートした中期計画『SHOWA-ism(イズム)計画』が、いよいよ最終年度に入りました。計画の進捗および達成に向けた取り組みについて、福井社長にインタビューしました。

第104期の業績を踏まえ、『SHOWA-ism(イズム)計画』の達成の見込みについてご説明願います。

第105期を最終年度とする3ヵ年経営計画『SHOWA-ism(イズム)計画』では、経営方針のひとつとして「収益性の向上」を掲げており、具体的には下記の目標を設定しました。

【最終年度目標指標(単体ベース)】

- ・売上高 1,300億円
- ・経常利益 35億円
- ・有利子負債額 400億円以下
- ・1株当たり利益 8円以上

おかげさまでこの2年間で目標指標以上に順調な業績を収めることができましたので、第105期は経常利益51億円、有利子負債額330億円以下を目標としています。

「収益性の向上」が順調に進捗している理由として、原料価格の急騰に対応した適正な製品価格を確保できたことや高付加価値商品への注力といった施策が奏功していることがあります。今後はさらに次のステップとして、生産体制の改革を進めてまいります。

小麦粉、油脂、ぶどう糖などの品目ごとに行っていた生産コントロール業務を見直し、重複業務を合理化することで、生産効率の向上を目指します。

平成16年10月に本社技術部門の統合、平成17年4月には主要3工場の組織を統合して生産体制のフラット化と社員の多能化を推進しています。

経営方針のもう一つの柱である「安心・安全・透明性の向上」についてお聞かせください。

当社は、「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」という企業理念のもとに生産・販売活動を行っています。「食」にたずさわる企業として、厳しく求められるべきコンプライアンス経営の推進とともに、原材料から生産、流通にいたるすべての工程において、お客様に安心・安全な食品をご提供する体制を確立するために、組織面や設備面でのさまざまな改善を重ねています。その一環として、平成15年10月に専任組織「製品法令・表示監視室」を設置し、昭和産業グループ企業全体に対して、お客様の視点に立って製品の安心・安全を向上するための監視・指導を行っています。

さらに、平成17年4月からは、「製品法令・表示監視室」にコンプライアンス推進の事務局機能と環境管理の事務局機能を統合して「法令監視室」に改編し、個人情報保護法への対応等をはじめとした当社グループ全体のコンプライアンス向上とCSR(企業の社会的責任)推進の役割も担うようになりました。

また、同時に昭和産業本体の監査を担当する部署と、グループ企業を監督する部署を統合して「業務監査部」とし、企業グループ全体のガバナンス監視機能を一層向上する施策も実施しています。

こうした改革を支え、当社全体のベクトルを目指すべき方向に向けて合致させていくために、さらに『SHOWA-ism(イズム)計画』では、「社員の質的向上」も経営方針の柱としています。



を達成します。

「社員の質的向上」について、具体的にはどのような取り組みを行っていますか？

当社は、「人を活かす」改革が収益面の向上と企業の信頼を高めると考え、さまざまな取り組みを行ってきました。

平成14年末、社員が会社に対してどのような思いを持っているかを調査する「エンゲージメント・サーベイ」という分析手法を導入したことで、「経営方針に対する理解不足」「コミュニケーション不足」といった実態を把握できました。

平成15年からは、私自身が全社員に対して、当社の現状や課題を直接説明する「全員総会」を毎年全国4カ所で開催し、すでに3回実施しております。さらに生産部門を中心に、製品安全、コンプライアンスや経営方針などについて社員自らが講師となって現場に向けた講義を行う「昭和塾」をスタートさせました。

その結果、継続的に実施している「エンゲージメント・サーベイ」のポイントが大幅に向上してきています。



全員総会



エンゲージメント・サーベイは、米国を中心に広く行われており、このポイントアップは業績に連動することが多いとされていますが、実際に『SHOWA-ism（イズム）計画』の成果もあがっており、社員全員の「仕事へのモチベーションの向上」を実感しています。

株主還元および今後の展開について、株主の皆様メッセージをお願いします。

当社は、経営基盤のさらなる安定化を図りながら、株主の皆様に対して長期的に安定した配当を継続させていただくことを基本方針とし、「各期の連結業績に応じた利益配分」を実施してまいります。

当期は、創立70周年記念配当1円を含む1株当たり7円を配当させていただきました。なお、前期より中間・期末の配当を統合し、期末に一本化してお支払いしております。

また、当期より株主優待制度を見直し、より魅力的な制度への拡充を図りました（裏表紙をご参照ください）。当社はこれからも、株主の皆様への利益還元に努めてまいります。

株主の皆様には、引き続きご支援をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。



誌 上 工 場 見 学

製 油 工 場 編

当社が操業する全国3ヵ所の工場のうち、食品生産の主力は茨城県鹿島郡の鹿島工場です。今回ご案内する製油工場では、主な原料である大豆や菜種から高品質な植物油を製造しています。原料の受け入れから充填までの全工程を、全自動の一貫生産で行っています。

1

原料精選

原料の大豆を精選機に通し、きょうざつぶつ茎などの夾雑物を取り除きます。大豆は油分が約19%と少ないので、油分を取り出しやすくするために破砕ロールで細かくした後、圧扁ロールで薄いフレーク状に伸ばします。



▲原料大豆

2

抽出

大豆から原油を取り出す工程です。温めたフレーク状の大豆から約1時間かけて、連続抽出機で油を抽出します。これを高温・高真空下で蒸留して大豆の原油だけを取り出します。

菜種やとうもろこし胚芽、紅花、ひまわりなど油分を多く含む原料はまず圧搾機で油を搾り出した後、大豆など油分の少ない原料と同様に連続抽出機で油を抽出します。

なお、油を取り除いた後の大豆フレーク（脱脂大豆）は、大豆たんぱくの原料として、また多くは配合飼料のたんぱく質原料として利用されています。



▲連続抽出機

3

精製

抽出された原油は、次の3つの工程を経て精製され、透き通った製品油となります。

●脱ガム・脱酸

まず、大豆原油に含まれる不純物（レシチンなどのガム質と遊離脂肪酸）を遠心分離機で取り除きます。



▲遠心分離機

●脱臭・脱ロウ

最後に、高温・高真空下で匂いの成分を蒸発させて取り除きます。また、サラダ油は低温処理して油中のロウ分を取り除きます。ロウ分とは油を冷却すると凍る成分のことで、サラダドレッシングやマヨネーズ等、低温で保存したり、生食する用途では油中のロウ分を除去しています。



▲脱臭機

●脱色

次に、活性白土を加えて色の成分を取り除き、ろ過機に通して色のきれいな油にします。



▲脱色機

4

充填

充填は、容器の投入からダンボール詰めまでの全てを完全自動化されたラインで行っています。また、抽出・精製・充填まで、油は密閉系ラインで製造されていますので、作りたての鮮度が保持されています。

ここで製品は厳しい品質検査を経て、「業務用一斗缶」「小型ボトル」「ギフト用丸缶」といった、さまざまな製品形態に充填されます。この他、タンクローリーや環境にやさしい紙パック詰めなどでも出荷しています。



▲小型ボトル充填ライン

連結財務諸表

● 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当期末 平成17年3月31日現在	前期末 平成16年3月31日現在
資産の部		
① 流動資産	46,479	50,546
固定資産	90,701	94,501
② 有形固定資産	74,099	77,613
無形固定資産	402	457
投資その他の資産	16,199	16,430
資産合計	137,180	145,048
負債の部		
③ 流動負債	59,515	63,967
④ 固定負債	29,590	34,622
負債合計	89,106	98,590
少数株主持分		
少数株主持分	1,321	1,329
資本の部		
資本金	12,778	12,778
資本剰余金	9,007	9,007
利益剰余金	21,816	20,587
その他有価証券評価差額金	3,178	2,764
自己株式	△ 26	△ 8
資本合計	46,753	45,128
負債、少数株主持分及び資本合計	137,180	145,048

① 流動資産

現金及び預金、たな卸資産の圧縮等により40億67百万円減少いたしました。

② 有形固定資産

設備投資額が減価償却費を下回ったことなどにより、35億13百万円減少いたしました。

③ 流動負債

支払手形及び買掛金、短期借入金等の減少により、44億51百万円減少いたしました。

④ 固定負債

長期借入金の返済等により、50億32百万円減少いたしました。

(百万円未満は切捨表示しております。)

● 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当 期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	前 期 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
売上高	184,696	181,206
売上原価	150,322	146,778
売上総利益	34,373	34,427
販売費及び一般管理費	28,915	29,620
営業利益	5,457	4,807
営業外収益	920	1,119
営業外費用	1,445	1,472
経常利益	4,933	4,454
① 特別利益	643	90
② 特別損失	1,402	428
税金等調整前当期純利益	4,174	4,116
法人税、住民税及び事業税	1,993	1,136
法人税等調整額	△ 253	1,064
少数株主利益	89	26
当期純利益	2,344	1,888

(百万円未満は切捨表示しております。)

① 特別利益

固定資産売却益2億3百万円、投資有価証券売却益4億29百万円等を計上いたしました。

② 特別損失

固定資産除却損3億47百万円、固定資産売却損3億69百万円、当社神戸飼料工場閉鎖に伴う損失6億46百万円等を計上いたしました。

●連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	9,007	8,970
資本剰余金増加高	—	36
資本剰余金期末残高	9,007	9,007
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	20,587	19,231
利益剰余金増加高	2,344	1,888
利益剰余金減少高	1,115	532
利益剰余金期末残高	21,816	20,587

(百万円未満は切捨表示しております。)

●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	7,540	10,274
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 376	△ 2,596
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,615	△ 6,483
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,452	1,193
現金及び現金同等物の期首残高	5,062	3,868
現金及び現金同等物の期末残高	3,610	5,062

(百万円未満は切捨表示しております。)

① 営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前当期純利益に減価償却費等の調整を加えた結果、75億40百万円の資金を得ることができましたが、前期との比較では27億34百万円の減少となりました。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー
投資有価証券の売却及び有形固定資産の売却で得た資金を有形固定資産の取得等に使用した結果、合計で3億76百万円の支出となり、前期と比べ22億19百万円支出が減少しました。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー
フリーキャッシュ・フロー（営業活動によるキャッシュ・フローから投資活動によるキャッシュ・フローを差し引いた余剰資金）を原資として借入金の返済等を行いました。

単体財務諸表

●貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期末 平成17年3月31日現在	前期末 平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	33,017	36,548
固定資産	74,092	77,080
有形固定資産	58,197	60,778
無形固定資産	306	365
投資その他の資産	15,587	15,935
資産合計	107,109	113,628
負債の部		
流動負債	39,650	44,329
固定負債	20,450	23,856
負債合計	60,100	68,185
資本の部		
資本金	12,778	12,778
資本剰余金	9,007	9,007
利益剰余金	22,120	20,928
その他有価証券評価差額金	3,129	2,737
自己株式	△ 26	△ 8
資本合計	47,008	45,443
負債及び資本合計	107,109	113,628

(百万円未満は切捨表示しております。)

●損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	前期 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
売上高	123,521	124,637
売上原価	97,628	98,863
売上総利益	25,892	25,773
販売費及び一般管理費	21,281	21,781
営業利益	4,611	3,992
営業外収益	747	838
営業外費用	1,155	1,163
経常利益	4,202	3,668
特別利益	616	86
特別損失	981	239
税引前当期純利益	3,838	3,515
法人税、住民税及び事業税	1,748	685
法人税等調整額	△ 209	933
当期純利益	2,300	1,897
前期繰越利益	3,738	2,632
当期末処分利益	6,039	4,529

(百万円未満は切捨表示しております。)

●利益処分

(単位:百万円)

科目	当期
当期末処分利益	6,039
固定資産圧縮積立金取崩額	310
計	6,349
これを次のとおり処分します	
株主配当金	1,263
	(1株につき7円)
別途積立金	3,000
計	4,263
次期繰越利益	2,085

(百万円未満は切捨表示しております。)

(注) 固定資産圧縮積立金は、租税特別措置法の規定に基づくものであります。

会社の概要 (平成17年3月31日現在)

- 設立 昭和11年2月18日
- 資本金 12,778,008,177円
- 従業員数 1,188名
- 本社所在地 〒101-8521
東京都千代田区内神田2-2-1 鎌倉河岸ビル

- 事業所
大阪支店／名古屋支店／仙台支店／札幌支店
福岡支店／広島支店／太田支店／水戸支店
千葉出張所／南九州出張所／鹿島工場／神戸工場
船橋工場／総合研究所／食品開発センター

■役員 (平成17年6月29日現在)

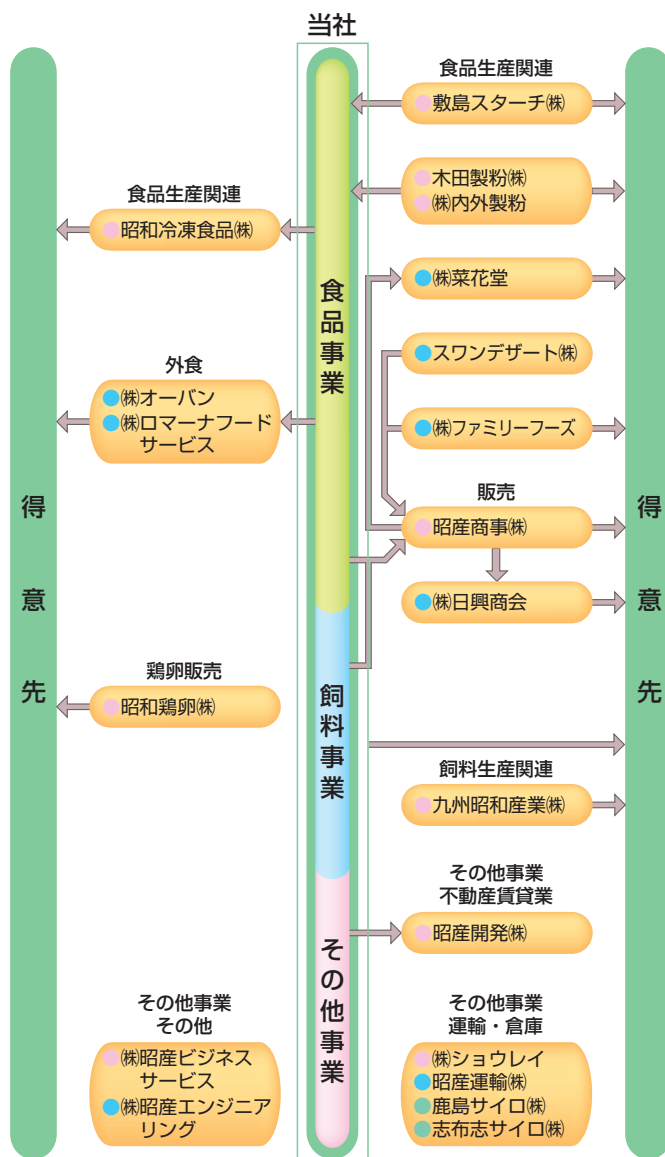
●取締役および監査役

取締役会長 (代表取締役)	金原 陸 夫
取締役社長 (代表取締役)	福井 茂 雄
専務取締役	栗原 忠 夫
常務取締役	江口 寛
常務取締役	横澤 正 克
常務取締役	金澤 多計志
取締役	中川 基 夫
監査役(常勤)	異儀田 勲
監査役(常勤)	金吉 誠 之
監査役	鈴木 孝 雄
監査役	中台 好 弘

●執行役員

常務執行役員	信岡 正 治
常務執行役員	御法川 修
執行役員	渡辺 睦 人
執行役員	石居 義 生
執行役員	田中 富 男
執行役員	佐久間 潤
執行役員	小川 敏 郎
執行役員	岡田 茂 爾
執行役員	四宮 哲 爾
執行役員	村井 眞 哉

■グループの概要



● 連結子会社 ● 非連結子会社 ● 持分法適用会社
 ▶ 製品および役務の流れを示しております。

株式情報 (平成17年3月31日現在)

株式の状況

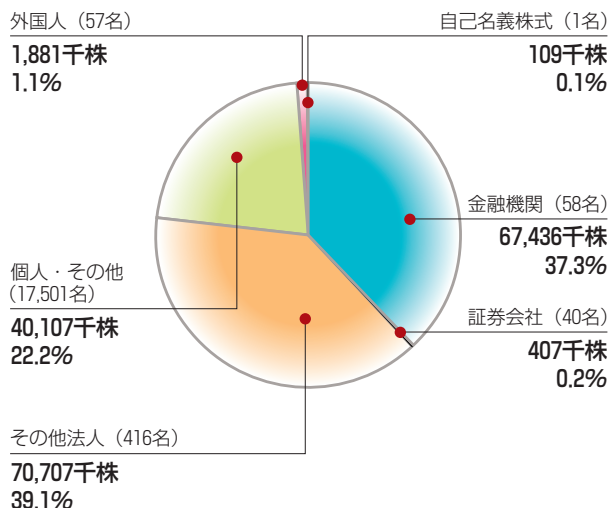
会社が発行する株式の総数 ————— 720,000,000株
 発行済株式の総数 ————— 180,649,898株
 株主数 ————— 18,073名

大株主(上位10名)

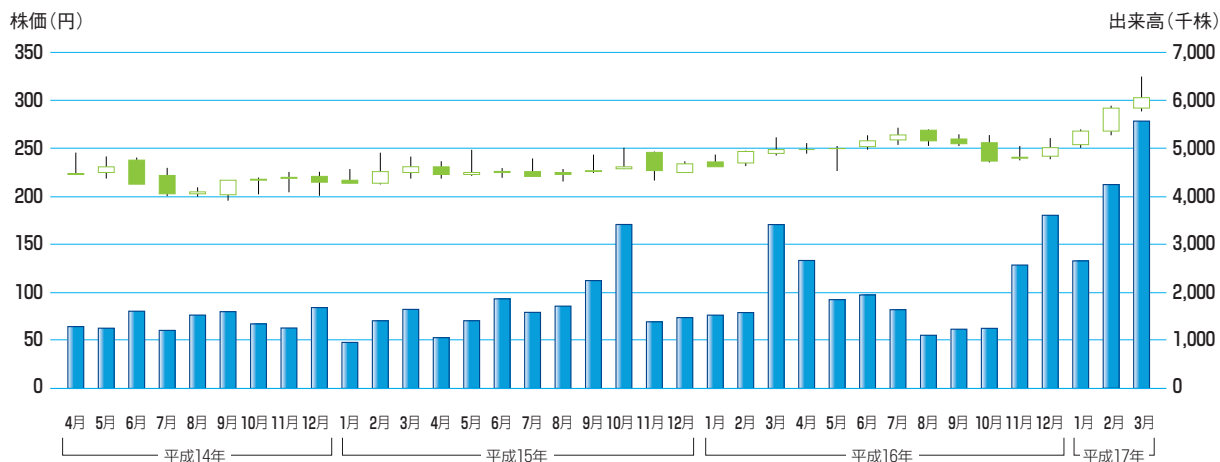
株主名	所有株数	出資比率
伊藤忠食糧販売株式会社	17,372,000株	9.6%
双日株式会社	11,525,016	6.4
日本興亜損害保険株式会社	8,545,501	4.7
株式会社千葉銀行	7,875,528	4.4
三井物産株式会社	7,700,000	4.3
農林中央金庫	5,515,396	3.1
東京海上日動火災保険株式会社	5,169,328	2.9
ユアサ・フナシヨク株式会社	5,049,600	2.8
株式会社カーギルジャパン	4,701,000	2.6
株式会社みずほ銀行	4,596,582	2.5

(注) 上記双日株式会社の所有株数には、株主名簿上は名義書換未完了のため日商岩井株式会社名義となっているものの、実質的には双日株式会社が保有している株式が含まれております。

所有者別株式分布状況



株価と出来高の推移



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
公告掲載新聞	日本経済新聞
基準日	3月31日
株式の名義書換	(名義書換代理人) 〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社 (同事務取扱所) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話(通話料無料) 0120-232-711 (同取次所) UFJ信託銀行株式会社各支店 野村證券株式会社 本店・支店

- 株式関係のお手続用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。
電話(通話料無料) 0120-244-479
インターネットホームページ <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

1単元の株式の数 1,000株

当社は決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を当社のホームページ(<http://www.showa-sangyo.co.jp/>)に掲載しております。

株主優待制度のお知らせ

今回(第104期)より5,000株以上保有の株主様向けに株主優待制度を新設いたしました。より魅力的な制度に拡充することで、株主の皆様へ利益還元を図ります。ご家庭の食卓で「日本をおいしくするSHOWA」の味をお楽しみください。

- ◆対象は毎年基準日(3月31日)時点で、1,000株以上保有の株主様に対し、自社製品を以下の基準により贈呈いたします。
- ◆お届けは毎年7月上旬になります。



- 1,000株以上5,000株未満保有の株主様
→2,000円相当の自社製品を贈呈。



- 5,000株以上保有の株主様
→5,000円相当の自社製品を贈呈。

昭和産業株式会社

〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号 鎌倉河岸ビル
Tel. 03 (3257) 2011 FAX. 03 (3257) 2180
<http://www.showa-sangyo.co.jp/>



本事業報告書は、環境保全のため、古紙100%再生紙を使用し、「大豆インク」で印刷しています。